



自転車社会の環境改善を目指して No.44

ヴェロ・シティグローバル2016 in 台北レポート 垣根を越えた台北での自転車国際会議

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員
デザインコーディネーター

中村利恵

自転車活用推進研究会 事務局：
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4階
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



台北での開催

台北において2016年2月27日から3月1日の間、ヴェロ・シティグローバル (Velo-City Global) 2016が開催された。

ヴェロ・シティは自転車利用促進に向け、環境整備、政策、観光、NGO、愛好家などが様々な専門的の角度を持って提案及び議論、情報提供、ネットワークづくりなどを目的とし基調講演やワークショップが繰り広げられる世界最大規模の国際会議である。

1980年ブレーメンから始まり、その後、欧州サイクリスト連盟 (ECF

European Cyclist's Federation) によりロンドン (イギリス)、グローニンゲン (オランダ)、コペンハーゲン (デンマーク)、など欧州を中心に今まで20カ国開催している。2010年、コペンハーゲンでの開催を機に世界へ向けたヴェロ・シティグローバルを偶数年に開催することとし、バンクーバー (カナダ 2012年)、アデレード (オーストラリア 2014年) と続き、台北 (台湾) での開催となった。

台北での開催はアジア初である。参加者は43カ国からなる1,000人を超える規模となり世界記録となった。日本からも、多くの参加者があり、会議を盛り上げた。



出発を待つサイクリストたち



高速道路を走行



バイクパレードの様子

バイクパレード

ヴェロ・シティのメインとも言われるバイク (自転車) パレードが28日の午後、快晴に恵まれて開催された。コースは台北市政府前広場から、椰子の並木が美しい仁愛路、新生高速道路を通り、円山大飯店を遠景に川沿いの大佳河浜公園で休憩、そして基隆路を抜けて台北市政府前広場へ戻る約17km。約2時間をかけて走行した。5,000を超える年齢を問わないサイクリストたちが参加し、お揃いの衣装や仮装など工夫をこらしたユニークな参加者も多く見られた。

何台もの様々な自転車が連なり一般道路、高速道路を占有して走る光景は非日常ではあるが、車や原付バイクが占める通常より空気がきれいだ。歩道の横に自転車レーンも整備されてはいるが、道路状態が決して良いわけではない。この日だけは道路の真ん中を気兼ねなく走ることができ、快感だった。随所に警官やボランティアの誘導員が立ち、スムーズに交通整備がなされていた。



講演の様子

パレードは成功し、台北の市民、そしてヴェロ・シティの参加者にとっても欧州サイクリスト連盟の推進する「自転車は持続可能で健康的な移動手段」が楽しみながら共有、アピールできたのではないだろうか。

シェアサイクル「YouBike」

ヴェロ・シティが台北に決まった背景の一つとして「YouBike」がある。台北市が大手自転車メーカーGIANT(ジャイアント)と提携し展開しているシェアサイクルだ。

悠遊カードと呼ばれるプリペイドカードもしくはクレジットカードで利用できる。悠遊カードはMRT(地下鉄)やバスなどの公共交通やタクシーでも共通で使え、駅やコンビニでチャージができる。ちなみにこのカードで地下鉄やバスを利用すると2割引になるのでお得だ。

YouBikeの料金は悠遊カードの場合、初めの30分は5元(約18円)、その後利用開始から4時間までは30分ごとに10元、4～8時間では30分ごとに20元、8時間以上は30分ごとに40元と細かいがリーズナブルだ。

ポートは150箇所を超え、台数も5000台以上用意されている。

乗ってみると安定感があり、身長140～190cmに対応している。サドルにはクッションがあり、乗りやすく雨でも染み込まない。オレンジ色



シェアサイクルYouBike

がカラフルで目立つし夜は自動でライトが点く。スカートでも巻き込まれないように車輪にカバーがしてあるなど気遣い満載だ。

「YouBike」のポートは地下鉄駅に設置されている液晶案内に駅周辺のバスの到着時刻とともに示されていて、どの交通手段が良いのか瞬時にわかるようになっている。台北ではシェアサイクルも公共交通の一部なのだ。

容易な扱いと気軽な価格のためか街中で昼夜問わず利用されていた。

レポートでは2014年、1日6万人、つまり1台を12人が利用したという記録がある。

日本開催を目指して

自活研メンバーを中心にした有志が集まり、2020年日本開催を目指して昨年夏から招致に向けて頻繁に話し合いを重ねてきた。

台北では欧州サイクリスト連盟Manfred Neun会長、幹部らとヴェロ・シティに参加している有志メンバー(古池弘隆宇都宮共和大学教授、屋井鉄雄東京工業大学教授、山中英生徳島大学教授、吉田長裕大阪市立大学准教授をはじめとした研究者、自活研・小林理事長、内海事務局長、市民団体、建設コンサルタント、自転車関連出版関係者、個人の資格で政府の官僚や自治体職員など)が意見交換をした。

「ヴェロ・シティは単なる国際会議ではない。開催都市は”自転車都市”ではなく、自転車政策や利用促進の取り組みをさらに飛躍させ、自転車利用でさらに生活の質が向上されるような、持続可能な都市で開催している。」と会長が強く語った。

2020年は東京オリンピック開催



欧州サイクリスト連盟幹部たちと意見交換



ヴェロ・シティ開催呼びかけのために制作したロゴ。台北ではこのロゴをピンバッジにして開催をPRした。

もあり、インバウンドの期待とともに各自治体では自転車環境整備に向けての様々な計画が進行している。

今まで取り組んできた自転車走行空間整備や交通安全意識の啓発なども含めた自転車利用促進が世界に発信できる大きなチャンスである。また多くの参加者を含む観光イベント、MICE(国際会議、展示)などの開催による経済効果も期待できる。

ヴェロ・シティ2020開催都市選定に向けたスケジュールは11月には募集が開始され、2017年10月最終候補地選定、12月には開催都市が決定される。私たちも有志の域を越え、候補地の呼びかけや組織づくりなどを具体的に進めていく必要がある。

Velo(フランス語で本来、ペダルという意味)は漕ぎ出されたのだ。

ヴェロ・シティ開催を機に自転車利用が政治、行政、企業、団体、市民のあらゆるネットワークと協働して施策を漕ぎ出し、社会全体の質が向上していくことを願っている。 PP

最後に欧州サイクリスト連盟(ECF)の名刺にある言葉を紹介したい。

「More people cycling more often」



「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。